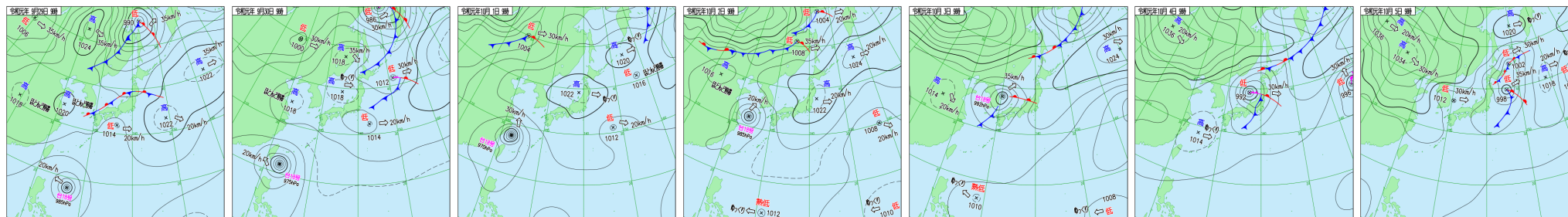


■天気図 (9月29日～10月5日 ※毎日午前9時を掲載)



■気圧配置の推移

29日は、台風18号がフィリピンの東海上を発達しながら北上。30日には「大型」で「強い」勢力となり、夜にかけて先島諸島に接近した。先島諸島は大荒れの天気となり、海上では波高9m以上の猛烈なしけとなった。その後、台風18号は勢力をやや弱めながら東シナ海を北上し、2日に朝鮮半島へ上陸。対馬海峡や九州の西海上ではしけた。

3日午後3時、台風18号は日本海上で温帯低気圧となった。その後、温帯低気圧は4日～5日にかけて北日本を通過し、三陸沖へと進んだ。4日は、山陰沖～能登半島沖で波の高さが6m以上の大しけとなった。5日は、日本海域やオホーツク海域、関東の東海上～三陸沖などの広い範囲で波が高くなった。

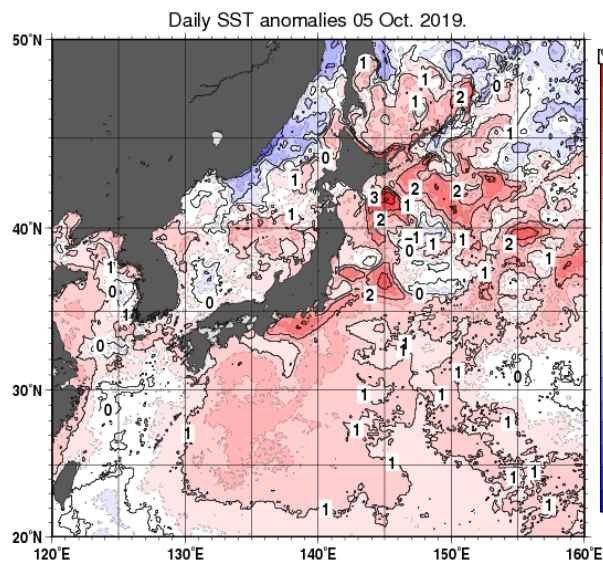
■海面水温

今期間、東シナ海～沖縄近海では、海面水温が平年並みの状態が続いた。黒潮主流の近傍である南西諸島近海～関東の東海上では、海面水温が平年より

高い海域が次第に拡大した。

日本海西部～中部や北海道の西海上では、海面水温が平年より高い状態が続いた。沿海州近海では、引き続き海面水温が平年より低い状態だった。

親潮の流れ込みが弱い影響で、北海道南東方沖では、海面水温が平年より高い状態が続き、今期間は最大で約3℃高い海域が見られた。



■海流の予測

黒潮は九州東岸～足摺岬沖で接岸して流れるようになる。一方、室戸岬沖～紀伊半島沖では引き続き離岸して流れる見込み。その後、潮岬沖を南東に流れ、最南位置は31.5°N、138°E付近となる予想。伊豆諸島付近では、三宅島付近を流れ、房総半島では、接岸と離岸を繰り返す。

親潮の南限位置は、八戸沖の40°N、148°E付近になると予想され、親潮の面積は、平年より小さくなるとみられる。対馬暖流の勢力は、平年並みか平年より弱い予想。

